

2023

通巻37号

一 令和5年1月発行

- ≈とがし園のショート(SS)だからこその独自性と変わらぬ取り組み≈
- ·とがし園デイサービス·デイホームの紹介
  - ≈介護予防から要介護支援まで≈



とばし園 インフォメーション

## 新年の誓い

# **〜施設と地域が織りなす** 福祉の可能性~

申し上げます。 かれましては、「高齢者総合ケアセンターこぶし また、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様にお 謹んで新春のお慶びを申し上げます。 の運営にご理解とご協力を賜り、心より御礼

び拡大いたしました。職員は日々の行動に最大限 旦落ち着きを見せたものの、昨年秋以降感染が再 底しておりましたが、目に見えないウイルスの侵 注意を払い、また事業所においても感染対策を徹 入を完全に防ぐことはできませんでした。 新型コロナウイルス感染症につきましては、一

この場をお借りし心よりお詫び申し上げます。 することとなりました。ご利用者様、ご家族様へ が、自粛期間中は大変なご不安とご迷惑をおかけ 規模なクラスターの発生には至りませんでした ビスを自粛いたしました。皆様のご協力により大 染拡大のリスクが高まったため、やむをえずサー 実際に複数の事業所においては事業所内での感

発生から3年が経過し、こぶし園も感染対策を

### 高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設長 舩越 芳之



開催を余儀なくされましたことは非常に残念で 大切な意見交換(運営推進会議等)も中止や書面 入所施設における面会の制限や、住民の皆様との 事や交流スペースの利用に制限が設けられ、また し園各サポートセンターが行ってきた地域向け行 組んでまいりましたが、反面この影響によりこぶ 徹底しご利用者様の安全を第一に事業運営に取り

で、ウイルスとの併存を進めていくことになりま 見が深まり、対策についての経験が蓄積される中 しかし今後は新型コロナウイルス感染症への知

拠点です。 様と相互に協力して地域を作るための地域福祉の センターは介護の拠点であると同時に、地域の皆 護サービスを地域へ展開してきました。 サポート こぶし園はサポートセンター構想を推進し、介

認知症支援、子供たちや福祉を学ぶ学生への福祉 暮らしやすい社会、地域共生社会の実現に向けて 皆様の近くにある各サポートセンターが誰もが

> 組んでいかなければなりません。 が果たせるように、地域作り・まち作りにも取り そして孤立しやすい人を地域社会とつなげる役割

教育、介護予防や健康増進、災害支援等に関わり、

供し、地域での安心した暮らしを支えることがで が築き上げてきた暮らしを支えます。] このこぶ きるよう、職員一同努力してまいります。 し園の理念のもと、皆様により良いサービスを提 本年もどうぞ変わらぬご指導とご鞭撻を賜りま 地域包括ケアの深化・推進に向けて、「その人

すよう、よろしくお願い申し上げます。



# こぶし園のショート だからこその独自性と変わらぬ取り組み



サービスは、ここから始まりました。 こぶし園がショートステイ事業を開始したのこぶし園がショートステイ事業を開始したのこぶし園がショートスティ事業を開始したの

介護を始めたきっかけの一つでした。わされているケースが多くみられていました。そわされているケースが多くみられていました。そわされているケースが多くみられていました。そらしたお嫁さんの介護はお嫁さん一人にその負担を負出の自宅での介護はお嫁さんがみる時は、お年寄りの面倒は自宅でお嫁さんがみ当時は、お年寄りの面倒は自宅でお嫁さんがみ

す。ポートしていたと、当時の話を聞いた事がありまば、市内はもちろん、遠方、市外まで足を運びサー家族(お嫁さん)が困っているとの情報があれ

しました。「ブレッシュ」には、ご家族がリフレッて「レスピットインこぶし」(定員30名)が開設に知度の始まる10年前になります。その後、ぶし」定員50名のショートステイでした。介護保が、1990年(平成2年)。「フレッシュインこが、1990年(平成2年)。「フレッシュインこが、1990年(平成2年)。「フレッシュインこ

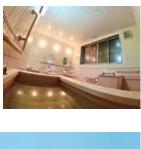
といった意味が込められています。また、ご家族 シュできるように、゛レスピット゛には、「休息 する時代でもなくなりました。しかし、ご家族側 となります。在宅サービスの種類も多種多様とな す。また、誰もが、気兼ねなく、ごく自然に利用 うです。利用する事で、ご利用者も、ご家族もゆっ の気持ちに変化はみられても、実際に利用される サービスを利用するにあたって、近所の目を気に お嫁さんが行うものといった考えも昔話となり、 り、そのイメージも大きく変化しました。介護は て運営しており、専用棟の開設から今年で33年目 移転。「レスピットインこぶし」(定員48名)とし くり休めて、英気を養えるという意味かと思いま う、〝施設っぽくない〟名称としました。ちなみ ご本人が抵抗なく介護サービスが利用できるよ ご本人の気持ちとしては、「本当は泊まりには行 してほしいという、当時の施設のイメージを払拭 に当時のコンセプトは『平成の湯治場』だったそ したいとの思いもあったのではないでしょうか。 2020年 (令和2年)、深沢町から与板町へ

私たちも、宿泊施設を選ぶ際は、美味しい食事と、スピットでは、食事と入浴に力を入れています。為の取り組みが今後の課題となります。現在、レご利用者に「泊まりに行きたい」と思って頂く

きたくない」と思われている方は多くいられるよ

うに感じます。

たでいきたいと思います。 いいお風呂は重要な判断基準となるよう取り組 で家族双方から選ばれる事業所となるよう取り組 です。湯治場、のまま。これからも、ご利用者、 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 を活かし、地産地消、季節の食材を取り入れる事 でいきたいと思います。





Lupportcenterzolo

# こぶし園デイサービス・デイホームの紹介 介護予防から要介護支援まで〜

させていただきました。今回はデイサービス、デイ プ事業については34号のネットワークこぶしで紹介 ホームの紹介を行います。 態になることを防ぐ介護予防事業「くらし元気アッ 提供するデイサービスを市内5か所(深沢、関原、 ムを3か所(干秋、しなの、けさじろ)、要介護状 プ」4拠点を市内で展開しています。くらし元気アッ しなの、けさじろ、永田)、認知症対応型のデイホー こぶし園では、ご自宅から通って介護サービスを

きるよう、入浴や食事、排泄の介護、生活機能の維 も、ご利用者が可能な限りご自宅で過ごすことがで 持・向上を目指した機能訓練等のサービスを提供し デイサービスは介護が必要な状態になった場合で

れています。そのような状況を防ぐためにも、自宅 な活動や行事、レクリエーションが提供されていま 皆さんが楽しく通え、生きがいが持てるよう、様々 も、認知症の症状が悪化する要因のひとつとも言わ す。高齢になっていくと、社会的な交流や役割が薄 大きなものと感じています。 から通ってサービスを受けるデイサービスの役割は くなってしまい、自宅への引きこもりがちになって しまいます。社会的な交流が少なくなっていくこと また、それぞれのデイサービスでは、ご利用者の

各デイサービスにおいて、それぞれの地域性や施

援を行っています。 の、けさじろ)では理学療法士、作業療法士のリハ 機能訓練を実施しているデイサービス(関原、しな もあれば、プライバシーを守りながら、お一人ずつ 設の特性を活かしながら、施設の雰囲気や環境に合 の生活が継続できるよう、多職種と協力しながら支 る機能訓練を実施することで、住み慣れたご自宅で エーションを提供しています。生活の中で活用でき わせた個別でのリハビリや小集団で体操やレクリ 別機能訓練を実施し、専門的な視点でご利用者に合 ビリ専門職を配置し生活機能向上、維持に向けた個 わせた活動内容、イベント、機能訓練等を提供して 入浴する個浴と施設によって変わってきます。また います。入浴施設も大浴場でゆったりと入れる施設

貢献していきたいと考えております。 ます。今後もサービス提供を通して、重度化防止に 持・改善されているかを把握し、ADL支援に力を 用者の身体状況の維持・改善が図れているかを知る て、客観的に数値化し、事業所全体でどの程度ご利 入れています。ご利用者皆さんのADL評価を通し を定期的に評価しながら、ご利用者の身体状況が維 ことで、職員自身のモチベーションにも繋がってい 昨年度からは、ご利用者のADL(日常生活動作)

### 〇デイホーム

症ケアを提供するサービスです。認知症の症状が 認知症の症状のある方を対象とした専門的な認知

> の支援や、生活機能向上の機能訓練を行います。 あっても、可能な限りご自宅で自立した生活を送る ことが出来るよう、デイサービスと同様、日常生活

ります。 活動やレクリエーションを提供できるメリットがあ 情を重視し対応出来る点や、ひとりひとりに合った 状態を把握しやすく、ご利用者のその時の状態や感 ご利用者の定員も少ないため、職員がご利用者の

も可能です。 流が苦手な方や、難しい認知症の症状の方への対応 定員は12人以下と定められており、大人数での交

めの貴重な機会と感じています。 半年に1回開催し、地域住民の方やご家族より参加 すので、地域住民の方々にサービス内容を周知する ことや事業所の課題の話合いを行う運営推進会議を していただいています。地域の理解と支援を得るた また、デイホームは地域密着型サービスになりま

者の方々の支援を行っています。 皆さんが安心して、過ごして頂けるようアットホー ムで落ち着いた雰囲気作りを心掛けながら、ご利用 デイホームでは、認知症の症状のあるご利用者の

護予防との繋がりあるサービスを提供でき、介護が 要介護者まで幅広く支援する体制ができました。介 と考えています。 継続できるよう通所事業間の連携を深めていきたい 元気アップ事業も4拠点と増えた中、介護予防から 必要な状態になっても、安心して通いのサービスが 従来のデイサービス、デイホームに加え、くらし

### デイサービスセンター 関原

食のイベントが好評です



長岡市関原町 1 丁目 4526 番地 0258-42-8501





### デイサービスセンターこぶし

川西地区の広いエリアの受け 入れを行っています



長岡市深沢町 2278-8 0258-46-6631





#### デイサービスセンター・デイホーム **しなの**

三種の個浴を完備してます



長岡市信濃2丁目6番18号0258-31-7822





#### デイサービスセンター・デイホーム **けさじろ**

平成4年に開設 歴史ある デイサービスです



長岡市今朝白2丁目8番18号0258-39-6288





#### デイホーム **干 秋**

認知症プログラムに対応したレク リエーションを提供しています



長岡市千秋 2 丁目 221 番 14 0258-28-8824





#### デイサービスセンター **永** 田

創作活動に力を入れ 地域に 作品を展示しています



長岡市永田 2 丁目 9 番 25 号 0258-21-2901





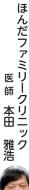


プロジェクトの取組にスポットを当ててみま ロジェクト」が立ち上がりました。それらの して「ACPプロジェクト」と「しつらえプ 今回は令和4年度より、新たな取り組みと

## ACPプロジェクト

令和4年10月16日 ZOOM研修へ参加 令和4年度厚生労働省委託事業 決定のための相談員研修会~ 備事業』~本人の意向を尊重した意思 人生の最終段階における医療体制設

### 談員研修会」に参加して 「本人の意向を尊重した意思決定のための相



取り組み」と定義している。 付け、「もしもの時のためにあなたが望む医 療・ケアチームと繰り返し話し合い共有する 療やケアについて前もって考え、家族等や医 プランニング(ACP)を「人生会議」と名 厚生労働省は平成30年アドバンス・ケア

と考えさせられた。 向を尊重したケアは在宅や特別養護老人ホー 検討されることが多いACPだが、本人の意 ム等の生活の場でこそ活かされるべきである 本研修会に参加して、医療の現場において

ムの想いだけでケアを続けてはいないだろう 私たちは、実際のケアの現場で自分やチー

現場においてACPを意識したケアの会議を 用しない手はない。私たちは、医療・介護の ACPというルールは非常に有用であり利

> えてケアを行うべきではないだろうか。 なく全ての人に行わなければならない。 繰り返し行い、そんなケアを誰一人残すこと したケアは実現できると思う。 私たちは日々目の前の利用者にそこまで考 その延長上に真に本人の意向・尊厳を尊重

# こぶし訪問看護ステーション

看護主任 品田 浩美



の自分らしく生きることを考え支援していき スタッフと、自分らしく望む暮らしの延長上 とには慣れていないし考えたくはない人が多 を送りたいのか考えることが大事であること りません。元気なうちからどんな生活、人生 ました。いつ病気や事故に遭遇するのか分か ることは価値観や死生観などで意見も変化し ループワークしました。相手の希望を推定す り家族と一緒にどのような生活や治療を希望 時期の意思決定の過程と意思疎通が困難とな いのが実情です。もしもの時を本人や家族、 を実感しました。しかし死について考えるこ しているのか推定し意思決定する過程をグ 研修では、事例を用いて意思疎通が可能な

# こぶし2時間ケアサービス





る人が70%程いらっしゃる中、現状では15 いう現実もあります。 ーセント程しか自宅で看取られていないと 「自宅で最期まで過ごしたい」と思って

れている方も多くいらっしゃいます。 すると面会も難しい状態で、つらい思いをさ さらに新型コロナウイルス禍の中で、入院 ACPは特別なものではなく、普段の生活

やケアの中での何気ない会話等からも、重要 な要素が様々あると思うのです。 その際、本人を中心として、今後の移行や

> 供や意思決定支援のスキル・コミュニケー 価値観・人生観を家族や親しい方・医療・介 ション援助技術を向上させサポートしていき 暮らしを、人生最期まで安心して続けられる ように、必要な医療・介護についての情報提 護等と共有し、住み慣れた地域で自分らしい

### 特別養護老人ホームこぶし園 業務部長 生活相談員 佐藤



思わずに、医療や介護が必要になった時のこ 味と重要性を考えさせられた。 汲み取りながら「人生会議」を行うことの意 で」「自分自身の生き方や価値観」を繰り返 間が限られている場合も多かったり、また要 しお話し、その時の気持ちの状況や変化をも とをイメージできなくても、「本人自身の声 が多い。元気なうちから、「まだ早い」とは 介護状態にて本人の意向を汲み取れない場合 ア)」においては、最終段階に至るまでの時 「人生の最終段階における医療・介護(ケ

ながらサポートしていくことが、私たち専門 感じ取り、その人たちの意思を繋ぎ、共有し 職としての役割だと思う。 い、様々な場面で「その人の気持ちに寄り添 い、そして課題分析、課題整理」に係る中で、 「その時の声や情景」をしっかりと読み取り、 私たちは、多くのご利用者やご家族と出会

\*令和4年度、こぶし園全職員を対象に『A P』について、様々な視点からアンケー CP』についての理解度や関わり方、そ トを実施しました。 して次年度に職員自身が学びたい『AC

や介護(ケア)について話し合える『人 ていきたいと考えております 生会議』の取組についての研修へと繋げ 『もしものときのために・・』望む医療

# しつらえプロジェクト

### 特別養護老人ホーム美沢 目黒

『しつらえ』という言葉を聞いたことがあ

ます。また、しつらえの言葉の中には てなし』の心も含まれています。 間を演出すること』と広い意味でいわれてい りますか? 『しつらえ』とは、ある目的のために

よい『しつらえ』にも繋がるのではないでしょ 間』となることが、暮らしの場として、より の共有スペースや居室等の空間が、ご利用者・ 職員共に誰もが安心でき、『居心地の良い空 さて、介護サービスにおいても、各事業所

それらが『空間を演出する』と考えられます。 係性』も良い印象を与えるものだと思います。 して、心豊かに過ごして頂けるか? 誰もが『居心地よく』『くつろげる』場と また、日々の『明るい挨拶』や『広がる関

係性を考えていきたいと思います。 ちや立場に置き換えて、心地よい事業所、 様々な視点からイメージし、お客様の気持 関



りを迎えたことでもある。 表向き響きはいいが、それは一つの区切あちこちで「新時代」がウタわれた昨年。

その結果が「新時代」を生むのであって、までに積み上げてきた過程であると思う。 のであろうと思う。 今の過程も次の時代に向かって歩んでいる 忘れてはいけないのが、そこに辿り着く

をこれからも大切にしていきたいと日々感様変わりするうらにある一つ一つの努力